

# 「緑の東京10年プロジェクト」

～緑あふれる都市東京を目指して～



東京都 環境局 自然環境部



# 緑の現状 1

- みどり率の平成10年の値は、区部で29%、多摩部で80%。
- 平成15年のみどり率(暫定値)は、区部で24%、多摩部で72%。
- 平成10年と15年では、調査方法が異なるため、調査結果を単純に比較することはできないが、区部で約1ポイント、多摩部で約2ポイント減少していると推計される。

※みどり率＝緑被率＋公園内で緑で覆われていない部分面積の割合＋河川等の水面が占める割合



## 緑の現状 2

---

- その減少の内容を、都が5年毎に実施している直近の「土地利用現況調査」で見ると
- 区部(平成13年から平成18年までの5年間)  
公園・運動場は約92ha増加しているが、農用地が約164ha減少。
- 多摩部(平成9年から平成14年までの5年間)  
公園・運動場は約56ha増加しているが、農用地約580ha、森林約400haそれぞれ減少している。



# 「10年後の東京」計画

---

- 平成18(2006)年12月に策定
- 緑は「8つの目標」の第一に  
『水と緑の回廊で包まれた美しいまち東京を  
復活させる』
- 2016年のオリンピック開催を視野に入れた都市戦略

# 10年後の東京の姿

## <緑に関する部分>

- 緑の拠点を街路樹で結ぶ  
「グリーンロード・ネットワーク」の形成
- 東京に、皇居と同じ大きさの緑の島が出現（「海の森」を整備）
- 新たに1,000haの緑  
（サッカー場1,500面）を創出
- 緑化への機運を高め、行動を促す  
「緑のムーブメント」を東京全体で展開
- 都内の街路樹を100万本に倍増



# 「緑の東京10年プロジェクト」 基本方針の策定

---

- 「緑の都市づくり推進本部」を設置  
(19年1月)
- 「緑の東京10年プロジェクト」を推進
- 緑あふれる東京の再生を目指し、今後  
取り組んでいく「緑施策」の基本的考え  
方や方向性などを示したもの

# 「緑の東京10年プロジェクト」基本方針

## 3つの基本的考え方

- 1 都民一人ひとりが主体的に、緑に関心を持ち、緑を育て、緑を守って  
いくことができる仕組みを構築
- 2 緑の創出・保全に向けて、誘導や規制など、多様な手法を展開
- 3 募金などの民間資金、基金等の財政的手法を効果的に活用して緑の  
ネットワークを充実

## 4つの方針

- 方針Ⅰ 都民・企業が主人公である「緑のムーブメント」の展開
- 方針Ⅱ 街路樹の倍増などによる緑のネットワークの充実
- 方針Ⅲ 校庭芝生化を核とした地域における緑の拠点づくり
- 方針Ⅳ あらゆる工夫による緑の創出と保全

# 「緑の東京10年プロジェクト

## 施策化状況2009」

＜2009年度～2011年度の取組＞



- ・プロジェクトの基本的な考え方・基本方針を踏まえた3カ年の計画(H21. 2. 27公表)
- ・基本方針 I ~ IV別に事業を整理
- ・事業数82、予算額427億円(H21年度)
- ・都民、企業、区市町村と連携しながら推進





# 方針Ⅰ 都民・企業が主人公である 「緑のムーブメント」の展開

---

- 都民が大切に育てる緑
- 都民・企業の参加による  
「緑の東京募金」
- 民間事業者による自主的緑化の取組

# 都民との協働・民間企業の取組

緑のボランティア



東京ふれあい  
ロード・プログラム



東京グリーンシップアクション



民間企業の自主的緑化





# 方針Ⅱ 街路樹の倍増などによる 緑のネットワークの充実

---

- 海の森の出現
- 街路樹の倍増
- 都市公園の整備
- 海上公園の整備
- 水辺の緑化



# 海の森

・中央防波堤  
内側埋立地

・88ha

・平成21年度～23年度  
(3カ年)で、14ha植樹

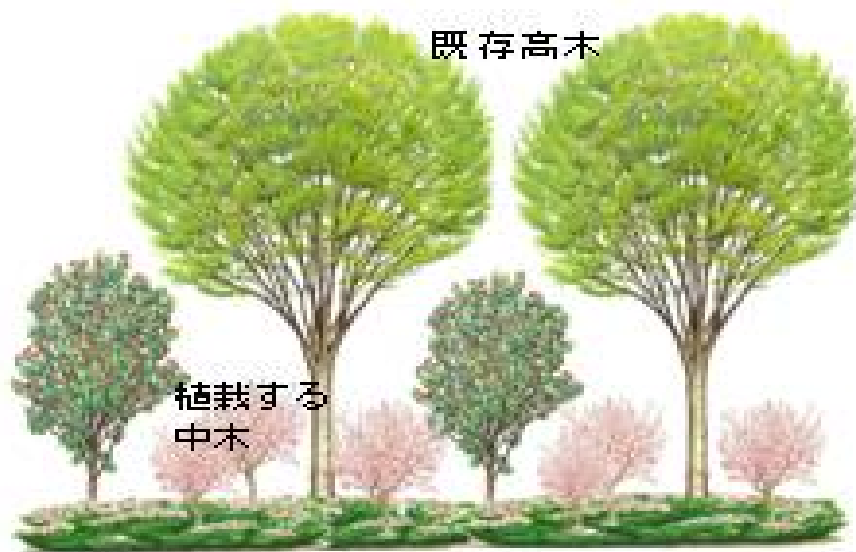
・平成21年度4ha植樹  
予算額:約7億5千万円





30年後の海の森公園（イメージ図）





中木の高木間への植栽イメージ

# 街路樹の倍増

平成19年度末 50万本

- ・平成21年度 6万本を植栽  
5地区(区部)、9路線(多摩部)を  
モデル地区に選定、3カ年で集中  
整備
- ・予算額:約13億5千万円  
(既存道路分)



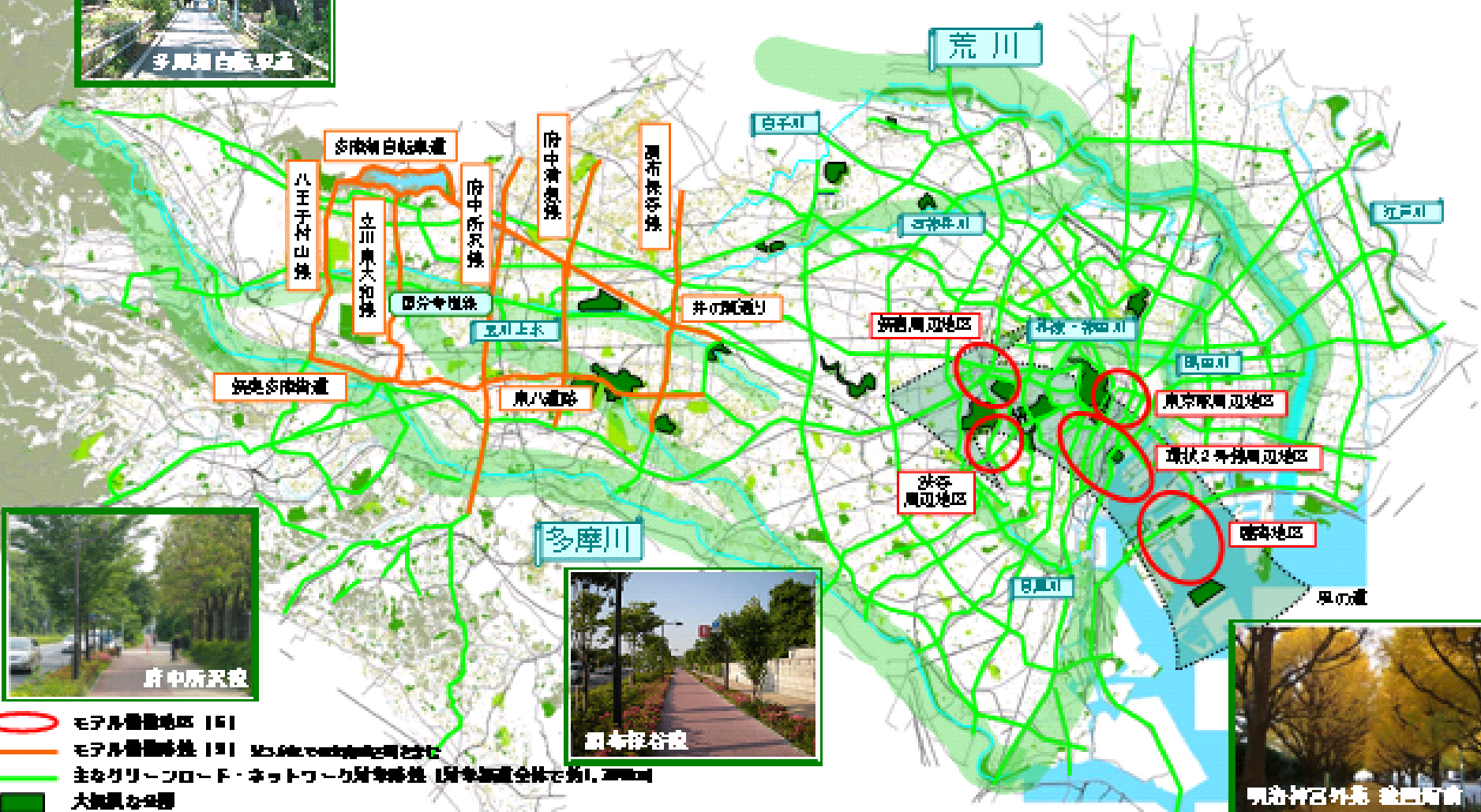
環状2号線

<千代田区 千鳥ヶ淵公園付近>

# 水と緑の回廊形成 グリーンロードネットワーク



水と緑の回廊の形成  
 ~グリーンロード・ネットワークの充実に向けた街路樹整備のモデル地区・路線~



- モデル整備地区 1区
- モデル整備路線 1区
- 主なグリーンロード・ネットワーク対象路線 1区
- 大規模な公園

# 都市公園の整備(都立公園分)

- ・平成21～23年度(3カ年)で70ha新規開園
- ・平成21年度:30ha整備 ・予算額:約188億円



・都立公園開園面積

H19年度末:1,857ha



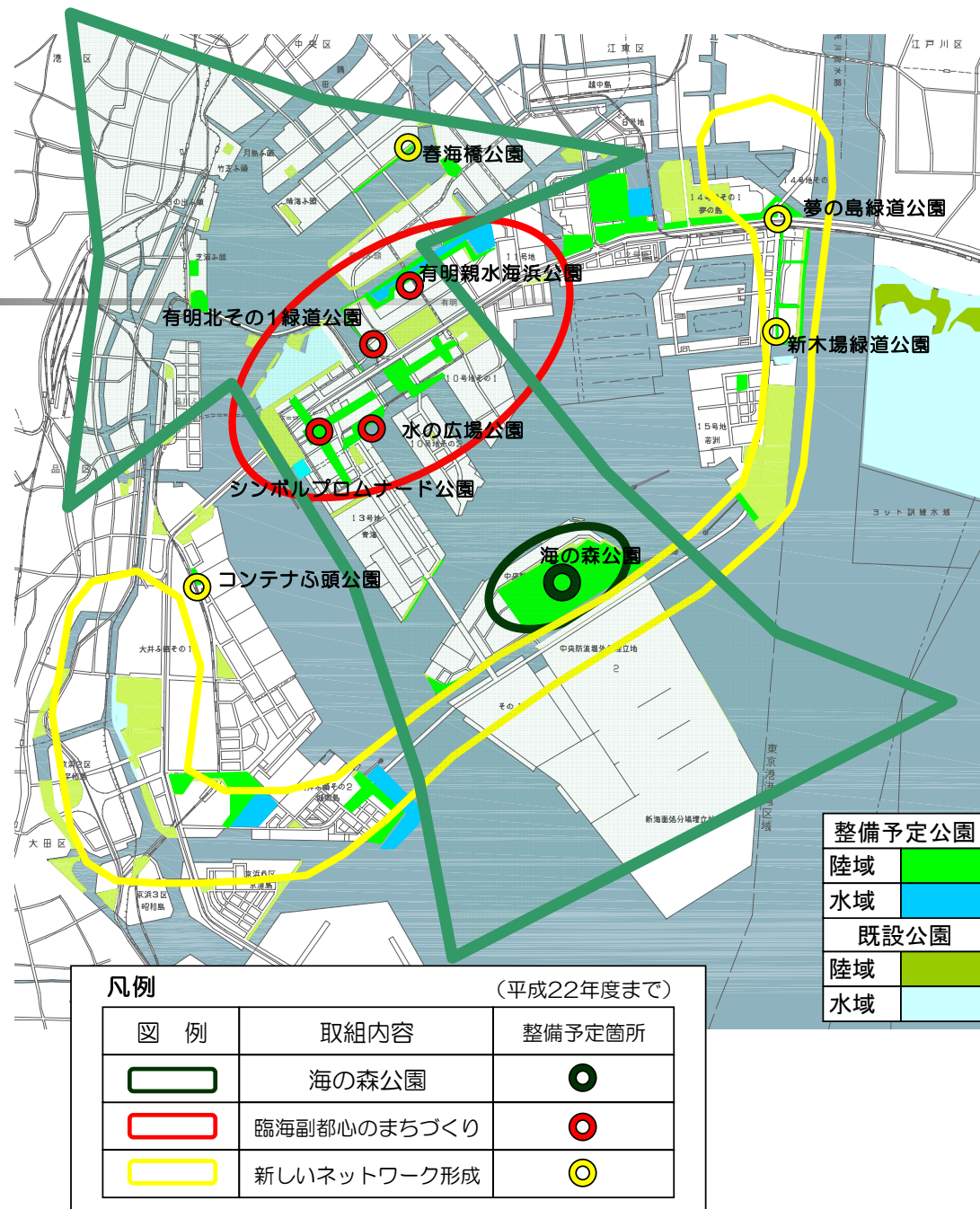
# 海上公園

## の整備

・H21～23年度(3カ年)で  
20ha整備

・平成21年度:約4ha整備  
予算額:約9億7千万円

海上公園整備面積:約780ha  
(平成20年度末見込)



# 海上公園



城南島海浜公園

## 東京港野鳥公園





# 水辺の緑化

- ・H21～23年度(3カ年)で35ha整備
- ・平成21年度:7ha整備
- ・予算額:約9億円(整備済み河川分)

## 河川の緑化

河川緑化面積:約70ha  
(H20年度末見込)

## 運河の緑化

・運河緑化面積:約4ha  
(H19年度末)



# 方針Ⅲ 校庭芝生化を核とした 地域における緑の拠点づくり

## ■ 学校等の校庭芝生化の推進

公立小中学校、都立学校、私立学校、幼稚園、保育所など

・平成21～23年度(3カ年)で

①公立小中学校300校50ha

②都立学校、私立小中学校、幼稚園、保育所 あわせて15ha

・平成21年度①85校実施、予算額:約37億円

実績:公立小中学校121校、都立学校30校、幼稚園31園  
保育所26所(平成20年度末見込)

## ■ 校庭芝生化への普及・支援策

校庭グリーンキーパー、芝生リーダー、東京芝生応援団

・平成21年度予算額:約6千万円



# 校庭芝生化 事例



芝生の上で元気良く



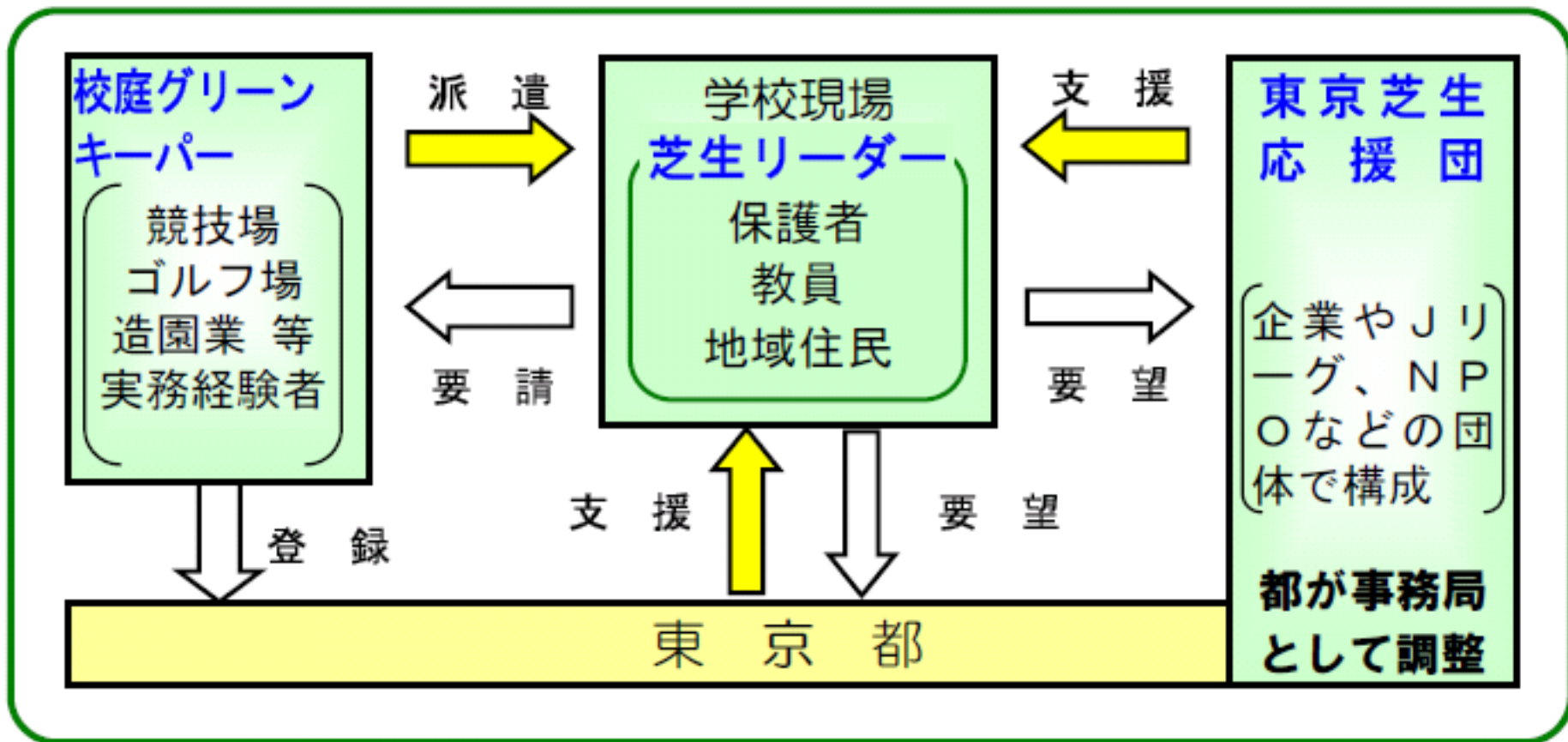
芝生の上で昼食会



「芝生フォーラム2008」

＜普及啓発イベント＞

## <校庭芝生化を進める地域とのつながり>



### ○芝生応援団

応援団長 川淵三郎氏(財団法人日本サッカー協会名誉会長)

結団式(平成20年11月29日)、参加団体数 67団体

# 方針Ⅳ あらゆる工夫による緑の創出と保全

## ・あらゆる都市空間の緑化

制度の強化・構築・普及

既存建築物の屋上緑化

都庁の率先行動

## ・緑の保全

市街地の緑の保全

農地の保全

丘陵地・森林の緑の保全

## ・緑の仕組みづくり

区市町村と連携した緑の創出・保全

# 緑を創り、守る制度の強化

「自然保護条例」を改正し、緑の創出・保全を強化

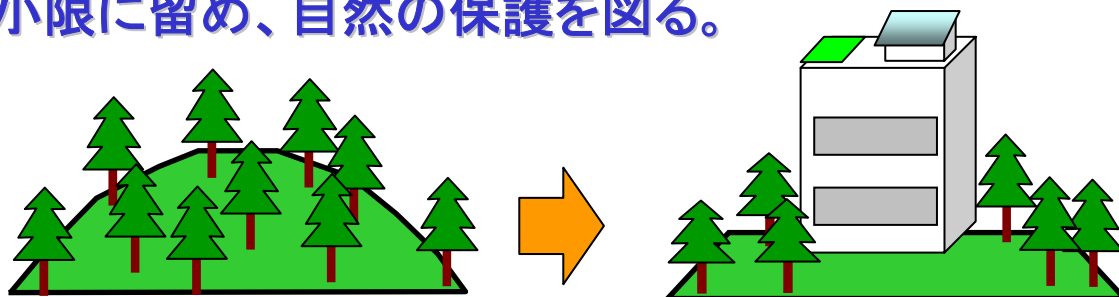
## ・緑化計画書制度（自然保護条例第14条）

新たな緑を創出し、市街地の緑化を推進する。



## ・開発許可制度（自然保護条例第47条）

損なわれる自然を最小限に留め、自然の保護を図る。

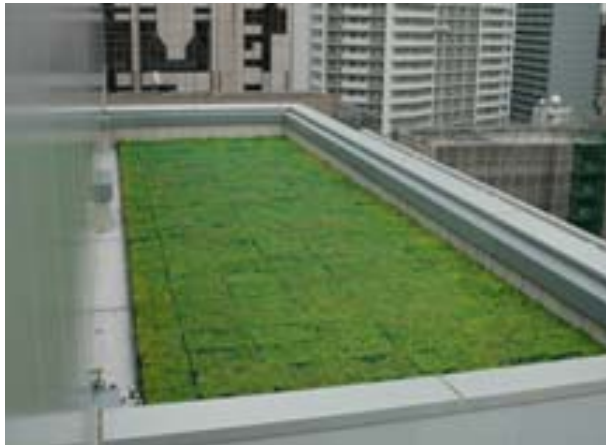


・H21年10月施行



# あらゆる都市空間の緑化

## 屋上緑化の事例



警察署・水再生センター



## 都施設の緑化

H21～23年度(3カ年)で15ha

## 壁面緑化事例



# 緑の保全 1



荒廃した森林

## 森林循環の回復 ＜森林循環再生プロジェクト＞

・H21年度予算額:約3億円



## 自然公園の保護と利活用

- ・地元自治体と連携した解説版等の整備
- ・「高尾山利用ルール」の普及 など



# 緑の保全 2



## 保全地域の指定

・H21年度予算額:約14億円

指定状況:47箇所、約750ha

(平成21年4月1日現在)

## 都市の農地を守る取組

＜都市と農地の共生プロジェクト＞

・H21年度予算額:約2千万円

農業・農地を生かしたまちづくりプラン  
の策定支援(2区市)、施設整備支援





# 今後の展開

---

- 集中的、重点的に施策を展開
- プログラムのローリング
- ムーブメントの展開
- 都民・区市町村・企業などとの  
連携・協働